

事例紹介

(農)強首ファーム(秋田県大仙市)

農事組合法人 強首ファームにおける大豆の取組

農林水産大臣賞の受賞

- 大仙市の農事組合法人 強首ファーム(代表理事 小山田 和人 氏)が、第48回(令和元年度)全国豆類経営改善共励会の『大豆 集団の部』において、**最高賞となる『農林水産大臣賞』を受賞**(東北大豆ピカイチ大賞も併せて受賞)



農事組合法人 強首ファームにおける大豆の取組

<受賞の概要>

- 平成19年度の基盤整備事業を契機に集団で大豆生産を始め、平成21年4月の法人設立以降、面積を拡大し、令和元年の大豆作付面積は約22ha
- 1ha区画に整理されたほ場を団地化し、**水稲・大豆の大規模ブロックローテーションを実施**
- ほ場の団地化に加え、**機械化を進め、大幅な省力化を実現**(10aあたりの労働時間は全国平均の約6割)したこと、基本技術の励行のほか、生育状況に対応した**きめ細かな肥培管理により、県平均比1.8倍の単収**(287kg/10a)をあげたことが評価された



農事組合法人 強首ファームにおける大豆の取組

耕種概要等の紹介

【作付面積】

R3年：24ha（うち団地化面積22ha）

【土づくり】

苦土石灰（粒）M-10 120kg/10a（大豆作付1年目ほ場のみ）

【排水対策】

本暗きょ・地下かんがいシステム施工済み、弾丸暗きょを毎年施工

【播種】

6月初頭～6月中旬、播種量4kg/10a、クルーザーMAXX使用

【基肥】

高度化成14-14-14 20kg/10a（側条施用）

農事組合法人 強首ファームにおける大豆の取組

【除草剤】

耕起前：ラウンドアップマックスロード、播種後：ラクサー乳剤または粒剤
生育期間中：大豆バサグラン液剤、ポルトフロアブル（必要に応じて）

【中耕・培土】

ディスク式培土機を使用 ※R3年度は3～5回実施（ほ場の状況に応じて）

【追 肥】

- 硫安（2kgN/10a）・LP70（4.5kgN/10a）を7月上旬の培土2回目のときに施用
- 尿素（液肥）を葉面散布（病害虫防除と同時、8月中旬&9月上旬）

【病害虫防除】

7月中下旬：プレバソンフロアブル5
8月中旬：ベルコートフロアブル、トレボン
9月上旬：プレバソンフロアブル5、スタークル